

シェルター (山形)



シェルターが建設し、ギネス世界記録に認定された南陽市文化会館大ホール
 〓南陽市



木造都市への思いを熱く語る
 シェルターの木村一義社長
 〓山形市

革命 木造都市の実現へ

「木造建築の壁を突破しなければならぬ」。木造建築メーカー・シェルター(山形市)の木村一義社長は、その思いで「燃えない木材」の開発を進めてきた。「COOL WOOD(クールウッド)」と名付けられた木質耐火構造部材は、千度を超える炉内で2時間にわたり燃焼させる耐火試験をクリアし、国土交通大臣の認定を取得した。木造の公共建築物、商業地域など防火地域に立つ中高層ビル…。「木造都市」の実現が見え始めている。

シェルターの名前を全国に広めたのは、接合金物で柱と梁(はり)、基礎と柱をつなぐ

オリジナルのシステム「KES構法」。その強さは阪神大震災で証明された。それに加えて、木質耐火構造部材の開発は「木造には無理」とされた建築への進出を実現する「革命」だった。2015年にオープンした南陽市文化会館は、「最大の木造コンサートホール」としてギネス世界記録に認定された。

木村社長は「世界的に木造の見直しが始まっている」と語る。地球温暖化への懸念が深まるにつれ、ウッドファーストへの潮流は強くなっている。「木造建築は右肩上がりになる。木造都市のパイオニアを目指す」

シェルター 1974(昭和49)年、寒河江市でシェルターホームとして創業。95年、KES構法の日本特許を取得。97年には、本社を山形市内に移し、現在の社名に変更。2013年、「COOL WOOD」を開発し、翌年に2時間耐火の認定を受けた。